

5月2日の総合的な学習の公開授業に続いて、秋田先生にとって2度目の公開授業となりました。「新聞を読み比べよう」の単元は、一昨年度も校内研で研究しましたが、その時とは違って第3次の授業を公開していただきました。教科書に掲載されている「川の環境」と似ている、高知新聞の記事を取り上げ、単元名にあるように、新聞記者の立場で「見出し」を考えていく授業でした。第2次で付けた力を子どもたちがどう活用していくのかそこが第3次のポイントになります。家庭学習で考えてきた見出しを基に、子どもたちは言葉にこだわりながらグループで話し合い、考えを深めていました。

単元名：「新聞記者になりきろう！」

教材名：「新聞記事を読み比べよう」(東京書籍5年)

研究授業：5年2組 秋田 喜俊 教諭

身に付けさせたい資質・能力

【知・技】**新聞記事の構成と写真の役割について理解すること(1)カ**

【思・判・表】**目的に応じて、新聞記事と写真や見出し等を結びつけ、必要な情報を見つたり、書き手の意図を考えたりすることCウ**

【学びに向かう力】**新聞に関心を持ち、進んで新聞を読もうとすること。**

今回の指導案で「身に付けさせたい資質・能力を3本柱に整理してみました。

新聞記事から見出しを抜いたものをワークシートにしています。



新聞記事に興味・関心を持ってもらえるように教室に切り抜きを掲示しています！

研究協議より(抜粋)

- ・単元の目標を達成するための単元計画になっているか。

○家庭学習のサイクル化ができており、予習でカードに自分が考えてきた見出しを書いていたので、時間の確保ができ、対話の手立てにもなり効果的だった。

- ・本時の目標が達成できたか。

▼言葉の意味や使い方には着目していたが、めあてにある、「書き手の意図」に触れたグループの話し合いにはなっていない。←新聞記事に赤線を引かせることで、どこを根拠にして見出しを考えたのか絞れたのではないか。または、話し合いのポイントの「理由」の部分に書き手の意図について着目させるようにする。

- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。

○板書に工夫があり「おすすめ」にならなかったカードをホワイトボードに並べたことで、なぜ「おすすめ」にならなかったのか説明が分かりやすかった。

▼対話の時にもノートにメモさせるなど、話し合いの部分をどうノートに残していくかが課題。

- ・言葉による見方・考え方を働かせた児童の姿は見られたか。

▼見出しの言葉には1字1字こだわって考えていたが、もっと既習を使い、写真や本文を押さえた「書き手の意図」のところで、深まりが見られるとよかった。

本時の板書 5/6時

学習の流れ

- 5年生 「新聞記事を読み比べよう」 学習の流れ (6時間)
- つきたい力
記事と写真との関係に注意しながら、書き手の意図を読み取る力。
新聞記事の見出しを書き、新聞記者デビューかも!? 交流をしよう。
- 学習の流れ
- 1 これからの学習の流れを知ろう。
・新聞記事には意図があることを理解し、新聞に見出しをつけるためにどのような学習が必要かについて考える。
 - 2 新聞記事の特徴を知る。
・○○の意図を理解しよう。
 - 3 二つの新聞記事を読み比べ、○○点や○○点をとらえて、整理しよう。
 - 4 二つの新聞記事を読み比べ記者の○○にせまろう。
 - 5 新聞記者デビューかも!?
・新聞記者になりきり、「見出し」を書こう。
 - 6 単元を振り返ろう
・分かったこと、できるようになったことを確かめよう。



対話のポイントを提示

本物の新聞記事を提示

ホワイトボードの活用



指導主事より

- ・児童は言葉にこだわって考えることができている、今までの中小の学習の積み重ねが生きていた。
- ・授業を仕組む際、付けたい力を実現した児童の姿を具体的にイメージしておくことが大切。
- ・「ことばによる見方・考え方」を働かせるためには、見出しを選ばせる理由付けとして、記事のどこを根拠としたのか、書き手の意図は何なのかに対話の視点を持っていくことが大切だった。
- ・今回取り上げた本物の新聞記事は、児童の実態に合っていたのか、文章が難しくはなかったか? 見出しの選ばせ方も班でNo.1を決めるのではなく、全員の中から自分のNo.1を決めてもよかったのではないかな。
- ・指導案の「身に付けさせたい資質・能力」のところは、目的に応じて各学校で決めてもよい。CSのままだと系統性も分かりやすく、指導案を見るみんなのものとなりやすい。具体的なものよりも大きく捉えた方がよいのではないかな。

授業者【リフレクションシートより】

資 記事に合った見出しを考える際にその見出しを付けた理由を書き手の意図や写真、本文との関連から述べるができる児童が少なかった。その原因は本時までの学習、与えた新聞記事の内容にあったかもしれない。もっと理由を述べる際のポイントや題材選びを精選していきたい。

主対深 今回の学習では、「おすすめ見出し」が同じような内容に偏ってしまった。また、深い学びという点では、予想よりも弱い展開となった。児童が持っている知識や学習したことから、さらに一歩レベルアップできる深い学びにつながる発問や授業展開を工夫していく必要があると感じた。

見 自分が伝えたいことに関連する言葉や文章を選び、選んだ言葉にこだわりを持って、意見や理由付けができる児童を育てるための単元計画や授業展開を日々の授業から考えていきたい。

秋田先生、本年度2回目の公開授業ありがとうございました。秋田先生のリフレクションにあるように、付けた力を第3次で活用させるためには、第2次で教科書を扱う時にしっかりと力を付けておくことが大切だということが分かりました。今回本物の新聞を第3次に持ってくることで、新聞をさらに身近なものと感じることができたのではないのでしょうか。新聞への関心を「見つめる目」の取り組み(新聞記事を読んで意見文を書く家庭学習)に繋げていく流れとなっています。「見つめる目」を続けることで、書き手の意図を捉える力が育まれ、文章を書く力も伸びてきます。中村小学校の1つの伝統として、続けて取り組んでいきたいと思えます。

今回の公開授業は、6年生です。大野先生、修学旅行が終わったらよろしくお願いします！